

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》山田桃子

【概 要】

(テーマ：日本文学をメディア文化から考える) 過去の文学作品を読む際、当時の社会・文化をふまえて読むことで、作品の理解と、社会・文化の理解がともに深まることは多い。講義では、明治・大正・昭和の日本文学が、当時浸透し始めたメディア技術とどう関わったかを学ぶ。具体的な作品を取り上げるほか、「メディアミックス」などの現在一般的になった現象についても考える。講義を通して、多角的な視点で文学を考えられるようになること、また文学や社会・文化についての理解を深めることを目指す。

【学習目標】

1. 文学について、作家の思想や文学思潮にとどまらない多角的な視点で考えることができる。
2. メディア文化という観点から、日本の近現代の文学と社会・文化に関する理解を深める。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	ガイダンス	講義内容や学修目標について説明できる。	山田桃子
2	明治の作家と肖像写真	作家の肖像写真をめぐる歴史とその問題について、説明できる。	山田桃子
3	大正期におけるメディアと文学的想像力(1)	宇野浩二の作品「夢見る部屋」について、ポイントを説明できる。	山田桃子
4	大正期におけるメディアと文学的想像力(2)	江戸川乱歩の作品「パノラマ島譚」について、ポイントを説明できる。	山田桃子
5	映画をめぐる感性の変化(1)	谷崎潤一郎の作品「人面疽」について、ポイント(映画文化と作家の関わり)を説明できる。	山田桃子
6	映画をめぐる感性の変化(2)	谷崎潤一郎「人面疽」について、ポイント(映画体験の歴史性)を説明できる。	山田桃子
7	映画をめぐる感性の変化(3)	内田百閒の作品「旅順入城式」についてポイントを説明できる。	山田桃子
8	映像文化とモダニズム文学の実験	モダニズム文学について、ポイントを説明できる。	山田桃子
9	戦争報道と文学(1)	戦争詩について、ポイントを説明できる。	山田桃子
10	戦争報道と文学(2)	坂口安吾の作品「真珠」について、ポイントを説明できる。	山田桃子
11	文学とメディアミックス(1)	日本におけるメディアミックスの歴史について説明できる。	山田桃子
12	文学とメディアミックス(2)(課題提出)	これまでの講義をふまえて、大正期の作品「人面疽」のメディア化に関する課題を提出する。	山田桃子
13	文学とメディアミックス(3)(課題提出)	これまでの講義をふまえて、大正期の作品「人面疽」のメディア化に関する課題を提出する(論述)。	山田桃子
14	文学とメディアミックス(4)(課題提出)	これまでの講義をふまえて、文学作品の映像化や、言語と映像という表現方法の違いに関する課題を提出する(論述)。	山田桃子
15	まとめ	講義全体のポイントを説明できる	山田桃子

【評価方法】

出席を兼ねた小テスト40%、演習課題60点であわせて評価する。

【備 考】

教科書：教科書は用いず、プリントを配布する。また、講義で扱う文学作品は、一部の長篇をのぞき、本文資料を事前に配布する。

参考書　： 講義内で随時紹介する。

【学習の準備】

予習：文学作品を扱う際は、事前に配布した本文資料を読んでおくこと。最初の数ページだけでも構わないので、事前に作品に接しておくのが望ましい。それ以外の回は、指定された事項を調べるなど、個別に指示する。（80分）

復習：プリントや自身のノート等で、講義内容を振り返り、自身の考えや理解を深めること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。